

プロトコール名 大腸癌 mFOLFOX6+ベクティビックス療法

適応 KRAS遺伝子野生型の治癒切除不能な進行・再発の結腸・直腸癌

投与期間 2週を1コースとして、効果がある限り継続

投与計画

薬剤名	基準量
ベクティビックス	6 mg/kg
レボホリナート	200 mg/m ²
エルプラット	85 mg/m ²
5-FU	400 mg/m ²
	2400 mg/m ²

KRAS遺伝子野生型を確認 年 月 日

薬剤名	投与量	Day	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14
ベクティビックス	6mg/kg		↓													
レボホリナート	200mg/m ²		↓													
エルプラット	85mg/m ²		↓													
5-FU(bolus)	400mg/m ²		↓													
5-FU(46hr)	2400mg/m ²		↓	↓												

- ①生食100ml(ルートフラッシュ用)
- ②グラニセロン1B+オルガドロン4A(30min)
- ③生食100ml+ベクティビックス 6mg/kg (1hr) **投与前後、生食にてルートフラッシュ**
- ④5%ブドウ糖250ml+レボホリナート 200mg/m² (2hr)
5%ブドウ糖250ml+エルプラット 85mg/m² (2hr)
- ⑤5%ブドウ糖50ml+5-FU 400mg/m² (5min)
- ⑥5%ブドウ糖+5-FU 2400mg/m² total 100ml (リニアフューザーDIB 46hr)

2時間					
生食100ml	グラニセロン オルガドロン	ベクティビックス 生食100ml	レボホリナート 5%ブドウ糖250ml エルプラット 5%ブドウ糖250ml	5-FU 5%ブドウ糖50ml	5-FU 5%ブドウ糖
	30分	1時間	2時間	5分	46時間

エルプラットは5%ブドウ糖注で希釈すること

ベクティビックスは生食で希釈すること

ベクティビックスは0.22ミクロン以下のインラインフィルターを通して投与すること

定期的に血中マグネシウム濃度測定をおこない、必要に応じて補正をおこなうこと
皮膚症状に対しては、セット処方をも有効活用すること

●休薬・減量基準

・次表の基準を参考に、減量・休薬をおこなうこと

好中球数	1500/mm ³ 以上で実施可能
血小板数	7.5万/mm ³ 以上で実施可能
総ビリルビン	5.0mg/dL以下で実施可能

・ベクティビックスによる重度(Grade3以上)の皮膚障害発現時は以下の表を目安に用量調節をおこなうこと

皮膚障害発現時のベクティビックスの投与量	投与の可否	投与延期後の状態	ベクティビックスの用量調節
6mg/kg	投与延期	6週間以内にGrade2以下に回復	減量なし 又は 4.8mg/kgへ減量
4.8mg/kg	投与延期	6週間以内にGrade2以下に回復	3.6mg/kgへ減量
3.0mg/kg	投与中止		

※6週間以内にGrade2以下に回復しなかった場合は、ベクティビックスの投与を中止すること